



松田 治男
 (免疫学)

約100万人に1人の割合で原因不明のクロイツフェルト・ヤコブ病(ヤコブ病、弧発性CJD)が発症します。一方、1980年代に英国で発生したBSE(牛海綿状脳症、俗に言う狂牛病)

伝達性海綿状脳症・プリオン病について①

は、2001年に日本でもその発生がありました。英国では現在までに18万頭以上もの牛がBSEになり、わが国では2009年までに36頭のBSEが見つかりました。

ヤコブ病もBSEも伝達

質な病気です。

2001年9月にわが国最初のBSEが発見されて以来、消費者の間で食肉への不安が高まり、行政は「食の安全・安心」を担保する仕組みづくりに着手しました。BSEは食を介して人に伝

達し、不幸なことにBSEが出た英国を中心に欧州では200人以上の人たちが亡くなりました。

り、BSEリスクは限りなくゼロに近いといえます(欧州では、BSEの出現は減少したものの終息するに至っていません)。

BSEを契機として「食の安全・安心」が叫ばれるようになりましたが、「食の安全

「食の安全・安心」を考える契機となったBSE

性海綿状脳症(プリオン病)と呼ばれる、治療法のない病です。生体内にある正常プリオンが構造変化した異常プリオンと呼ばれるタンパク質が病原因子で、これが伝達性(感染性)を持つという点でプリオン病は極めて異

な。わが国では2009年以降BSEは発生しておらず、国際的にもBSE清浄国に位置付けられてお

る。安心」も形骸化しているのか、ごく食品の偽装事件が後を絶ちません。本来、「食」は消費者が主役であるにもかかわらず、利益優先の企業論理がまだまだまかり通っているように思えます。私たち消費者はもつと目を光ら

せなければいけないのかもしれません。

医療事故による人のヤコブ病(医原性CJD)という病気があり、不名誉なことに、日本は世界で最も多くの被害者が出て、いずれも不幸な結果となっています。なぜ、日本が一番多いのかを含め、次回は、この医原性CJDについて

解説してみたいと思います。



過去の記事

広島大学マスターズは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。
【問い合わせ】
 kazuwp@hiroshima-u.ac.jp(渡部)